

平成 22 年 4 月 19 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007 ~ 2010

課題番号：19320059

研究課題名 (和文) アナトリア諸語と印欧諸語の動詞体系の比較言語学的研究

研究課題名 (英文) A Comparative Linguistic Study of the Verbal System in Anatolian and Indo-European Languages

研究代表者

吉田 和彦 (YOSHIDA KAZUHIKO)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90183699

研究代表者の専門分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：印欧語、アナトリア諸語、ヒッタイト語、比較言語学、動詞形態論

1. 研究計画の概要

ヒッタイト語ならびにその周辺の古代アナトリア諸言語で書かれた新資料の発見、およびこれらの言語資料に対して施された文献学的成果は、近年の印欧語比較言語学の研究に対して、量と質の両面から以前とは根本的に異なる視点を与えている。

アナトリア諸語は、印欧祖語に遡ると考えられる古い文法の特徴を多く保存しているために、印欧語動詞形態論の研究において重要な役割を果たしてきた。しかしながら、未解決な部分が依然として多く残されている。その大きな理由は、アナトリアの各言語の動詞形式を包括的に収集整理し、それぞれの言語の動詞体系内部でのそれらの位置付けを明らかにする作業を行う前に、いきなり他の印欧諸語との比較分析に進んだからである。

本研究では、印欧語動詞形態論の問題について、実証的な立場から収集した言語資料に対して比較言語学的分析を施すことによって、新たな知見を引き出すことは目指す。

2. 研究の進捗状況

(1) ヒッタイト語の3人称単数中・受動態は、概して規則的につくられる。しかしながら、共時言語学的あるいは歴史言語学的にみた場合、その形成法に対して自然な説明を与えるのが困難な中・受動態動詞の形式がいくつかある。その典型的な例としてあげられるのは、lagāittari 'lies, is laid (low)' と išhuwaitat 'scattered' である。文献学および言語学的分析によって、これらの形式は語幹が-a-によって拡張された lākai と ishukai という能動態に、後期ヒッタイト語において生産的な中・受動態語尾-ttari (現在) と-ttat (過去) が付与さ

れた結果、成立したことを明らかにした。

(2) アナトリア祖語の時期に、アクセントのある長母音の後、およびアクセントのない母音間で子音が弱化したことはよく知られている。この2つの子音の弱化規則は、アクセントのある長母音をはじめのモーラにアクセントのある2モーラ連続と再解釈すれば、直前のモーラに内在する[-stiff vocal folds]という素性がつぎの子音に広がる順行同化としてとらえることができる。また同じくアナトリア祖語の時期に生じた語末の-rの消失についても、直前のモーラが[-stiff vocal folds]という素性によって特徴づけられる場合に-rが消失したと考えれば、ヒッタイト語 zinnattari 'is finished' に代表される鼻音接中辞を持つ中・受動態3人称現在形が無理なく説明できる (*ti-n-h₁-ór → *tinnór > *tinnó → zinnattari)。

(3) Weiss (2009) は、1人称単数中・受動態の2次語尾として*-h₂e と*-h₂eh₂e を印欧祖語に再建した。彼の見方では、ギリシア語の1次語尾-μῶνと2次語尾-μῆνは、それぞれ*-(m)-h₂e-i と*-(m)-h₂eh₂e-m という祖形から規則的に導かれる。しかしながら、ヒッタイト語においては重複語尾-ḫḫaḫa は後期ヒッタイト語に特徴的であり、古期ヒッタイト語では生産的に使用されていない。この事実から、印欧祖語に*-h₂eh₂e が存在していたという見方は受け入れることができず、ギリシア語の-μῆνについては別の歴史的説明が必要である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

これまで理解するのが困難であったいく

つかのヒッタイト語動詞形式に対して、印欧語比較言語学の立場から妥当な歴史的説明を与えることができた。また、これまで印欧祖語に再建されると考えられていた形式のいくつかは後の二次的な発展の結果であることを明らかにした。

4. 今後の研究の推進方策

印欧語あるいはアナトリア諸語の動詞形態論の諸問題について、文献学的な立場からみれば、これまで提案されている見方のなかには妥当性を欠くものがあることを指摘した。そのうちのいくつかについては、新しい歴史的説明を施すことができたが、まだ十分に解明されていない問題も残っている。引き続き、歴史比較言語学および文献学的分析を進めていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① Kazuhiko Yoshida, “On the origin of thematic vowels in Indo-European” Kazuhiko Yoshida and Brent Vine (eds.) *East and West: Papers in Indo-European Studies* (Hempden Verlag). 265-280, 2009. 査読無
- ② Kazuhiko Yoshida, “Another archaic linguistic feature in Hittite” *Studi Micenei ed Egeo-Anatolici*. 50: 851-859. 2008. 査読有
- ③ Kazuhiko Yoshida, “Hittite *pár-ḫa-at-ta-ri*” *Tabularia Hethaeorum*. 719-724. 2007. 査読有
- ④ Kazuhiko Yoshida, “Hittite *la-ga-a-it-ta-ri*” *Festschrift in Honor of Belkis Dinçol and Ali Dinçol*. 803-806. 2007. 査読無
- ⑤ Kazuhiko Yoshida, “Some irregular mediopassives in Hittite” *Proceedings of the Eighteenth Annual UCLA Indo-European Conference*. 129-141. 2007. 査読有
- ⑥ Kazuhiko Yoshida, “The morphological history of Hittite mediopassive verbs” *Verba Docenti: Festschrift for Jay Harold Jasanoff*. 379-395. 2007. 査読無

[学会発表] (計 14 件)

- ① Kazuhiko Yoshida, “1st singular iterated mediopassive endings in Anatolian” The Twenty-first Annual UCLA Indo-European Conference, 2009年10月30日、カリフォルニア大学ロサンゼルス校
- ② Kazuhiko Yoshida, “The loss of intervocalic laryngeals in Sanskrit and its historical implications”, 14th World Sanskrit Conference, 2009年9月2日、京

都大学

- ③ Kazuhiko Yoshida, “On the prehistory of Hittite *je/a*-verbs”, The 28th East Coast Indo-European Conference, 2009年6月13日、アイスランド国立大学
 - ④ Kazuhiko Yoshida, “Hittite *-ḫahat(i)*, Lycian *-ḫagā* and Greek *-μην*”, VII. International Congress of Hittitology, 2008年8月28日、チョルム (トルコ)
 - ⑤ Kazuhiko Yoshida, “Loss of word-final *-r* in Anatolian: A reformulation”, The 27th East Coast Indo-European Conference, 2008年7月21日、ジョージア大学
 - ⑥ Kazuhiko Yoshida, “On the Origin of Thematic Vowels in Indo-European”, Conference on Indo-European Studies, Kyoto University, 2007年9月11日
 - ⑦ Kazuhiko Yoshida, “Some secondarily formed Mediopassives in Hittite” エルランゲン-ニュルンベルク大学、2007年7月3日
- [図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

[その他]